

Y M F G

アジアニュース

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所

【現地駐在】TMB 銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)

HD 銀行(ベトナム・ホーチミン)、明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス(ベトナム・ホーチミン)



【大連支店】

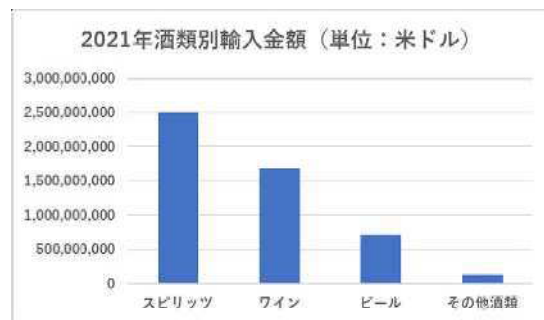
中国の酒市場と大連の日本酒を巡る環境

1. はじめに

4月中旬に入り、大連はまだコートが無いと肌寒さを感じる時期ですが、少しずつ街中にも春を感じる景色が広がってきました。当店の他、多くの日系企業が入居している「大連申貿ビル(旧森ビル)」前の桜も咲き始め、何事もないかのような日常生活を過ごしています。しかし中国国内では3月以降、上海をはじめ各地域で新型コロナウイルスの感染が拡大し、大連市内も一時は多くのホテルが隔離ホテルとして利用されていました。4月中旬に入りようやく、隔離ホテルを目にする機会は少なくなり、代わりに桜を目にすると、春の訪れと共にコロナ前の生活が戻ってきたと実感しています。今回は、お花見には欠かせない日本酒の中国での販売状況を紹介致します。

2. 中国の酒類市場

右の図は中国酒類輸出入商分会の統計を元に作成した、2021年の酒類別の輸入状況になります。ブランデーやウイスキーを含むスピリッツ類の輸入金額が最も大きく、約25億米ドル(約3,125億円)、前年比66.9%増となっています。次いで、ワインが約17億米ドル(約2,125億円)、前年比7.4%減となっています。

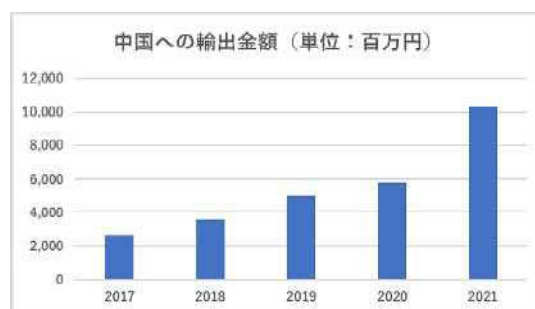


中国酒類輸出入商分会統計より筆者作成

中国人にとって身近なお酒は「白酒」と呼ばれる蒸留酒です。「白酒」は普段の飲食時や会席時にも飲まれますが、アルコール度数は40度を超えるものが多く、中には60度を超えるものもあります。水や氷で割って飲む習慣はなく、ストレートで一気に飲み干すため、身体の中から燃えるような刺激を感じるお酒です。「白酒」は商品によって味や香りに特徴があり、アルコール度数が高いにも関わらず、中国の食文化として性別や年齢層問わず多くの方が飲まれています。日本料理店の方に、中国の方がウイスキーを好む理由についてお聞きしたところ、ウイスキーも、「白酒」のようにアルコール度数が高く、香りを味わうといった似た要素があり、人気に繋がっていますが、ブランデーはウイスキーと比べ、味

わいと風味が違うという点で残念ながら人気はないようです。またウイスキーは世界的に需要が増え、本数限定販売のため現在も投機対象として求める方も多いのが現実です。次点のワインは、既に中華料理とともに飲む習慣があり、様々な会食の場でワインが提供されています。また、ワインは健康に良いというイメージも広まっており、特に女性に人気です。

次に中国向けの日本酒輸出状況です。右の図は財務省貿易統計を元に作成した、直近 5 年間の中国向け日本酒輸出金額の推移を示したものです。直近の 2021 年では、中国向けの輸出金額が約 103 億円（前年比 77.5%増）と大きく伸長し、中国が初めて最大の輸出相手国になりました。また、4 年前と比較すると、約 4 倍の規模に拡大していることが分かります。



財務省貿易統計より筆者作成

現在は世界的な新型コロナウイルスの流行により渡航が難しいですが、コロナ前の 2019 年に、訪日中国人観光客は史上最多となる 959 万人を記録していました。また、訪日中国人観光客が増える中、中国国内の日本料理店もそれに伴い増えていました。こうした状況を背景として、コロナ以前から自治体や国税庁等が海外バイヤーとの商談会や日本酒のプロモーションを継続的に行っており、そのような取組が日本酒の認知度向上へ繋がり、2021 年の貿易統計へ反映されていることが窺えます。

3. 「小売店」「日本料理店」「EC サイト」

大連市内の「小売店」、「日本料理店」および「EC サイト」での日本酒取扱状況をご紹介します。



スーパーの日本酒販売コーナー（筆者撮影）



ローソンの酒類売り場（筆者撮影）

「小売店」では白酒、ワインの販売はよく見かけますが、日本酒は輸入食料品等を取扱

う専門店や大型店でなければ購入することができません。左の写真は、大連市内の大型ショッピングモールにあるスーパーの日本酒販売コーナーです。「白酒」「ウイスキー」「ワイン」の販売コーナーと比較すると種類は少なく、銘柄もみなさんがよく知る酒造メーカーばかりです。店頭の小売価格は、関税、消費税、輸送費用等が加わるため、通常、日本の小売価格の 2~3 倍になります。さらに、大型ショッピングモール内での販売は、商品を陳列する棚代や販売員の人件費もコストとして加わるため、「高い」といった印象を受けます。右の写真はローソンの酒類売り場です。通常は日本のコンビニのように日本酒や焼酎は販売されていませんが、日本の駐在員が居住する近隣のローソンに限り、焼酎を見かけることがあります。ローソンで日本酒、焼酎が常設販売されていない状況から、一般の方はまだまだ日本酒に関心が低いのが現状です。

次に「日本料理店」ですが、大連市内には日本料理と名の付く店舗が 1,300 軒以上あると言われてます。日本酒の銘柄は 5~10 種類ほどで、どの店舗も同じような銘柄を取り揃えています。先ほどのスーパーの写真にも写っていますが、中国では「瀬祭」の認知度が高く、多くの日本料理店が取り扱っています。日本酒の販売状況について聞いたところ、2,000 元（約 36 千円）を超える高価格帯の商品は、主に経営者等の富裕層からの注文が多く、なかでも、日本に行ったことがある方や日本の文化に興味がある方、仕事で日系企業と関係のある方が大半を占め、一般的な消費者が日本酒を注文することは稀だそうです。一方で、大連は海鮮が有名な地域であり、日本酒と海鮮料理は相性が良いことと、日本料理は薄味で香辛料を多用せず食材を楽しむ料理との評価から、日本酒を注文する方が徐々に増えているようです。



大連市内の日本料理店（筆者撮影）



筆者のスマートフォンによる「淘宝」検索画面



筆者のスマートフォンによる「当行提携 EC（万衆雲倉）」検索画面

最後に「EC サイト」についてご紹介します。中国の「EC サイト」といえば、11 月 11

日（独身の日）に年間最大のセール「双 11（ダブルイレブン）」を行うアリババ集団の「タオバオ（淘宝）」が有名です。中国語で日本酒を意味する「清酒」と検索すると、数多くの日本酒が出品されています（左図）。また、当行が提携している越境 EC でも日本酒を取扱っています（右図）。越境 EC では、購入金額の制限等がありますが、関税が免除、消費税や増値税の税率が 30%減となるため、一般貿易に比べて販売価格を抑えることが可能です。こうした越境 EC の税制優遇を利点に、私どもは中国での販売価格を日本の 1.2 倍程度に設定することを目標に、2019 年 5 月から越境 EC の取組をスタートさせ、主にオフラインイベントでの販売に注力した結果、累計販売は 1,500 本を超えています。

4. 終わりに

2021 年 11 月に日中を含む 15 カ国で締結した「地域的な包括的経済連携(RCEP)協定」で、中国向け日本酒輸出に課税される関税 40%の段階的な引き下げ、21 年目の完全撤廃が決まりました。また、日本政府は日本酒を含む伝統的酒造りのユネスコ無形文化遺産への登録を目指しています。

中国向けの日本酒輸出の拡大傾向が続いていますが、中国が輸入している他の酒類と比較すると、まだまだ市場規模に大きな差があります。今後、関税引き下げによる販売価格の低減、世界的な日本酒の認知度向上が進み、中国人消費者の関心を集めることができれば、中国の日本酒市場が今後更に拡大することが見込まれます。

今回は日本酒をテーマにしましたが、山口銀行大連支店では中国に関する様々な情報を発信しています。ご質問等ございましたらお気軽にご相談下さい。

（山口銀行大連支店 古屋 俊雄）

【参考文献】

- ・ 国税庁課税部 酒税課・輸出促進室（2022 年 3 月）『酒のしおり』
<https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/shiori/2022/index.htm?msc1kid=a3accdd0c75811ec8e8d249ac8bdb110>
- ・ JETRO(2022 年 4 月 13 日)『2021 年の日本酒の最大輸出相手国は中国に 大連のバイヤー 3 社に聞く』
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2022/aa4e4e3ce1463532.html>